

第6学年 外国語科学習指導案

日時 令和4年11月29日(火)
場所 1階 外国語活動室
指導者

1 単元名 『Unit6 Let's think about our food.』

2 単元に関わる児童の実態

児童は、自宅での料理経験は少なく、食料や産地、栄養バランスにまつわる事柄への関心は低い傾向にある。本単元を通してそれらへの関心を高め、食材を通じた地域・世界とのつながりを意識し、自分たちの食生活を見直そうとする児童を育てていきたい。

児童同士の対話活動では内容が伝わっているか自信がもてなかったり、反応がにぶかったりするなどの課題があるため、「OK?」と聞き手の理解を確認したり、「Oh!」「Really?」など反応しながら聞いたりの活動を取り入れ、豊かにコミュニケーションをとることができるようにする。

3 研究と関わって

研究内容1：児童が自ら目指す姿を明確化することのできる学習過程の工夫

(1) 学ぶ意欲を高める単位時間における課題設定

前時までで材料の産地や栄養素についての表現を学習したことを踏まえ、オリジナルカレーを交流することを伝える。「給食のメニューに、自分たちが考えたカレーを提案する」という目的に向けて、カレーの種類、味、栄養、食材の産地など、様々なパターンのカレーが生み出せることを示すことで、児童の「よりよいメニューにしたい」という意欲を引き出し、活動の見通しをもつようにする。

(2) 学びの足跡を確かめる振り返り

毎時間の振り返りにおいては、その時間に自分に身に付いた力について具体的に振り返ることができるよう、どんな活動をしたか、どのような表現を用いたか、何を伝えることができたかなど、観点を明らかにして振り返るようにする。

(3) 単元における主体的に伝え合う姿の明確化（単元指導計画に記載）

研究内容2：児童が生き生きと伝え合う言語活動の工夫

(1) 実生活につなげた言語活動の充実

食材の産地・味・栄養素のグループなど、複数の観点でオリジナルカレーを考えたり、質問したりする活動を位置付けることで、給食で児童が実際に食べることを想定しながらそれぞれに適した表現を扱うことができるようにする。

(2) 児童の思考における根拠や理由の明確化

オリジナルカレーを学校給食で再現することを事前に伝えることで、アピールポイント（味、栄養バランス、産地、作り方など）を詳しく考えるようにする。また交流時に質問をさせることで、根拠をもってアピールポイントを考えたり、それを伝えるための英語表現を調べる必然性をもたせたりできるようにする。

(3) 目的に合わせた交流方法の創造

グループ同士で前半交流を行い、よさや改善するとよい点を交流する。その後、他グループの発表のよい点を取り入れたり、自分たちのメニューのよさを再確認したりする時間を位置付け、後半交流で、より魅力が伝わるように発表することができるようにする。

4 単元指導計画

単元の目標		食材の産地や栄養素などの表現に慣れ親しむ活動を通して、日本語との文構造の違いや、相手に伝わるよう配慮して話す・聞くことの大切さに気付き、オリジナルのカレーを考え、食材の産地や栄養素などを明らかにしながら紹介することができる。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	食材の産地や栄養素などについての表現を理解し、話を聞き取ったり、例文を参考に書いたりする技能が身に付いている。
	思考・判断・表現	自分たちで考えたオリジナルメニューについて紹介したり、質問したりすることができる。
	主体的に学習に取り組む態度	食材を通じて世界のつながりや文化を理解しようとしたり、相手に気持ちが伝わるよう、主体的にコミュニケーションをとろうとしたりしている。

時間	目標	目指す子どもの姿
1	対話の様子や音声などから情報をつかむ活動を通して、食べた物やそれらの産地についての英語と日本語の発音の違いに気付き、やり取りのおおよその内容を理解することができる。	・音声を聞いて、気付いたことをワークシートの1に書く。 I ate curry and rice last night.
2	対話の様子や音声などから情報をつかむ活動を通して、食べた物や頻度、食べ物の産地について、英語と日本語での表現の違いに気付き、やり取りのおおよその内容を理解することができる。	・音声を聞いて、気付いたことをワークシートの2に書く。 I usually eat beef curry at home.
3	モデル会話や教科書イラストを活用しながら、食材やその産地について話す活動を通して、身近な食材が様々な国・地域で生産されていることに気付き、産地を考慮に入れてグループのオリジナルカレーの具材を考えることができる。	S1: What's this? S2: This is a melon. S1: Where is the melon from? S2: The beef is from Hokkaido. S1: How much is it? S2: It's 398 yen.
4	モデル会話や教科書のイラストを活用しながら、食べ物がどの栄養素のグループに入るのか話す活動を通して、栄養バランスのとれた食事の大切さに気付き、産地や栄養素を考慮に入れてグループのオリジナルカレーを考えることができる。	・食材が描かれたカードを見て、どのグループに入るかクイズを出し合う。 S1: Beef is in the red group. S2: That's right!/Try again.
5 (本時)	オリジナルカレーを紹介し合う活動を通して、カレーの種類、栄養素、産地などによって様々なバリエーションが生み出せることに気付き、自分たちのカレーの魅力が伝わるよう工夫して話すことができる。	This is our special Gifu curry. This is a beef. The beef is from Hida. The tomato is from Tarui. It's very delicious.
6	リモートで岩手小学校の児童にオリジナルのカレーを紹介する活動を通して、相手に伝わるよう配慮して話すことの大切さに気付き、発音や発話の速度を工夫しながら紹介したり、反応しながら聞いたりすることができる。	S1: Where is the beef from? S2: The beef is from Hida. S1: Where is the tomato from? S2: The tomato is from Tarui. S1: Oh! That's nice!
7	日本の食料自給率や世界の食料事情について予想したり調べたりする活動を通して、食料を通じた世界とのつながりに気付き、世界と日本の文化に対する理解を深めることができる。	・映像や音声を視聴し、スイスについて分かったことを書く。 ・日本の食料自給率や世界の食糧事情について調べ、考えたことを発表する。

【単元における主体的に伝え合う姿】

「～is from…」 「～is in …group.」などの表現や既習の表現を用いて、相手の方を見ながら伝え、「OK?」と聞き手の理解を確認したり、うなずきや「Oh!」「Really?」などの言葉で反応しながら聞いたりする。

5 本時の目標

オリジナルカレーを紹介し合う活動を通して、カレーの種類、栄養素、産地などによって様々なバリエーションが生み出せることに気づき、自分たちのカレーの魅力が伝わるように、発表の仕方を工夫して話すことができる。

6 本時の展開 (5/8)

時間	主な学習活動	指導・援助 ○研究に関わる指導
0	1. 歌を歌う ・ Let's Sing ♪What did you eat? ♪	・映像を見ながらリズムに合わせて発音する。
3	2. Small talk をする。 ・ Which meat do you like?	・モデル会話をもとにペアで会話をさせる。
6	3. 課題をつかむ。 ・ ALT の発表から本時の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">聞く人が食べたくなるように、オリジナルのカレーを紹介しよう。</div>	○1 (1) HRT と ALT で実際に発表をしたり、メモをとったりする様子を見せることで、児童が活動の見通しをもてるようにする。
8	4. オリジナルカレーの発表の準備をする。 ・ 絵やメモで表したカレーを、紹介したいポイントを明らかにし、英語で伝える準備をする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">This is our special Gifu curry. The beef is from Hida. The tomato is from Tarui. It's very delicious.</div>	○2 (2) 今回の対話活動で使えるような既習表現を板書しておく。 ・分からない英単語や伝え方を相談して、P.D で調べたり HRT や ALT に聞いたりするよう伝える。
15	5. 前半交流を行う。 ・ グループ同士でオリジナルカレーを発表し合う。 ・ 聞くグループは話したグループのよさや改善するとよいところを伝える。 ・ 聞き手と話し手を交代し、同じく交流する。	・ 交流の手順を確認する。 ・ 対話活動が苦手な児童に寄り添い、助言をしながら見届ける。
25	6. グループでメニューを見直す。 ・ 他グループのよいと思ったアイデアや説明の仕方を取り入れるなどして、カレーの発表の仕方を改良する。	○1 (3) 話す人は「OK?」と聞く人に確認をとるよう促す。また、聞く人は、うなずきや「Oh!」「Really?」などの反応をしながら聞くように促す。 ○2 (3) 前半交流の様子から「既習表現を活用している」「資料を指さしながら」「ジェスチャーや反応」などで豊かにコミュニケーションをとっていた児童の姿を広め、後半交流にいかすようにする。
30	7. 後半交流を行う。 ・ 前半交流とは違うグループを相手に、再度交流する。	・ 前半交流からの児童の変容を捉える。
40	8. 学習を振り返る。 ・ 本時の活動を振り返り、できるようになったことや紹介したい仲間の姿などを書く。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">・ ジェスチャーを意識しながら話すことができました。 ・ ○グループのカレーが、産地を岐阜県のものにそろえていて、地産地消を意識しているんだと分かりました。</div>	○1 (2) 本時英語で伝えた内容や仲間の発表のよさから自身の学びを確かめることができるように、交流中にとったメモを参考にしながら振り返るよう促す。 ○1 (2) 交流の前半から後半にかけて児童の様子を見届けた中で、伸びを感じた姿を紹介する。

【評価規準】

自分や仲間が考えたカレーの材料、産地、栄養素などについて、それぞれに適した英語表現を用いて説明している。
(思考・判断・表現)